

社会科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 関心・意欲が5・6年生は目標値を、4年生は区平均を下回った。昨年度からの課題が改善されていないので、児童が社会科への興味を高められるよう授業を改善する必要がある。
- 5・6年生で知識・理解の観点で目標値を下回った。児童に習得させるべき知識や技能を確実に身に付けさせることを目指す。授業計画を組み立てる際に、指導するべき知識を整理したり、4方位を含む地図の読み取り方を繰り返し指導したりすることで、学力の向上につなげたい。
- 思考・表現の力を伸ばすために、資料を読み取るだけでなく、そこからどのようなことが考えられるか、自分はどう考えたかといったことを考察し、表現する活動を取り入れる。

社会科における調査結果の分析

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
観 点 別 結 果 の 分 析	5・6年生で目標値を下回った。高学年になると、作業的・体験的な活動が減少し、区や都などの身近な地域からより広範な範囲に学習対象が広がっていくことが原因と考えられる。高学年の児童も関心をもてるよう工夫していく必要がある。	5・6年生は目標値を下回った。全ての学年に共通して、複数の資料を比較したり関連付けて自分の考えを説明したりすることに課題が見られる。授業の中で意識的に資料を読み取る活動を取り入れていく必要がある。	5・6年生は目標値を下回った。資料からどのようなことが読み取れるかを答える問題に誤答が目立つ。資料が複数になると、さらに正答率は下がる。授業の中で、資料をどのように見たらよいか、段階的に指導していく必要がある。	5・6年生で目標値を下回ったが、4年生は6ポイントほど目標値を超えた。4年生の地図記号や5年生の都道府県の名称と位置といった問題は正答率が高く、社会科の基礎的な用語は身に付いている。6年生の工業や農業の分野での正答率が低いので、確実な定着に定着させたい。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 問題解決的な学習の定着

→「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程に見通しをもてるように問題解決的な学習の定着を図り、児童が社会的な事象を進んで調べ追究しようとする態度を育てていく。

2 分かったことや考えたことを短い文章で表現させる

→社会的な思考力・判断力・表現力を伸ばし、知識・理解を定着させるために、事実や意見を自分の言葉で表現させる活動を取り入れる。授業の終わりに、知識として得た社会的用語を使ってまとめるようにする。

3 資料を読み取るスキルを定着させる。

→グラフなどの数値の変化や、資料の読み取り方・活用の仕方について、5年国語「グラフや表を用いて書こう」や各学年の算数と連携するなど、社会科単独ではなく、合科的な指導を進める。

4 社会科に対する児童の興味・関心を高める。

→児童が社会科の学習に興味をもてるよう、導入の段階で児童が「どうしてだろう?」「なんでこうなっているんだろう?」と「解決したい」「調べたい」と思えるような資料を提示する。

社会科の授業改善策

1 社会的な事象への関心・意欲・態度を高めるために

→児童が関心・意欲をもてるよう導入を工夫する。また、高学年では特に、ゲストティーチャーや外部の教育機関、企業の協力を得て、授業に多様な活動を取り入れる。体験的・作業的な活動を多くすることで、社会科の学習内容を児童が身近なものとして感じられるようにしていく。

2 社会的な思考・判断・表現を高めるために

→中学年では、児童にとって身近な地域のことを学習する。スーパーや消防署で見学や体験したことから学習が結び付くように、見学をする前の授業で疑問に思ったことを話し合う。そして、疑問に対する自分の予想とその根拠をしっかりと書く。実際の見学では、自分の予想が正しいかどうかを確かめる。見学後には、「どのような工夫や努力があったか」で終わらせず、その工夫や努力は何のために行われているのかを考え、自分の言葉で説明する活動を取り入れる。

→高学年の「調べる」段階では、複数の資料から読み取ったことを比べる、関連付ける、まとめる思考の仕方を指導する。

3 観察・資料活用の技能を高めるために

→表やグラフの読み取り方をくり返し丁寧に指導する。特に3・4年生の段階では、注目すべきポイントも合わせて指導していく。例えば、最大値、最小値、変化の差が大きいところ、変わらないところ など

→5・6年生では、複数の資料を読み取る場面、資料が示していることから思考する場面を設定していく。また、デジタル教科書を用いて、途中で止めてその後を予想するといった活動を取り入れる。

4 社会的な事象についての知識・理解

→八方位、都道府県・日本の周辺国の名称と位置は学年を問わず、地球儀や地図帳を活用して定着を図る。

→特に3年生、4年生においては、学区図、大田区地図、地図帳を活用して、地図の読み取り方を繰り返し指導する。特に、四方位、八方位を用いて、地図から分かることを説明させたり、等高線の読み取り方を指導したりする。また、教室に掲示して児童の目に入るようにし、地図への関心を高め、慣れ親しませていく。